黙想の祈り:12月29日(主の降誕第5日)

黙想のテーマ:「シメオンの 希望への召命」「御聖体でイ エスに出会う」「あなた自身 も剣で心を刺し貫かれます」

シメオンの希望への召命

御聖体でイエスに出会う

あなた自身も剣で心を刺し貫かれま す

メシアを見るまでは死なないと、聖 霊はシメオンに啓示しました。どの ようにしてそれを伝えたのかを想像 するのは容易ではありません。シメ オンは希望への召命を持っていると 言えます。そしてある意味、私たち も希望に召されています。皆がメシ アの業を見るのを待ち望んでいま す。それは、癒しの恵み、地上で既 に行われている贖いの喜びと幸せで す。シメオンによって私たちは皆、 約束された救いを、ここ、地上で見 て聞くことができるものとして受け 取りました。メシアは遠くにいるの ではありません。降ってきて私たち の一員となりました。私たちは救い 主に触れることができます。

またシメオンが幼子をどのようにして見出したのかも分かりません。福音書は目に見えるしるしについて語りません。シメオンが幼子を見出すよう促したのは、聖霊であったことが示唆されています。そこにはマリ

神のご自身の現し方、そして日々の現し方、のご自身の現し方へのご自身の現したちへのご自身と対してもりる私たちは当惑たちははをしたのであるはない。私たちはが私たちはがあるはができるがある。というでは、はないであるがである。というである。というである。というである。というである。というである。というである。というである。というである。というでは、いっかのはいるでは、いっかのでは、いっかでは

で、深遠で繊細です。神は押し付けません。それゆえ私たちの肉をご自身のものとすることをお望みになりました。私たちもシメオンのように神にお願いしましょう。進みつつある贖いの業を観想できるように目を開いてくださいと。

|主よ、今こそあなたは、お言葉ど おり、この僕を安らかに去らせてく ださいます。わたしはこの目であな たの救いを見たからです」 (ルカ2・ 29-30)。私たちを取り巻く環境全 てから、神の救い、神の隠れた静か な行いを見出すよう、私たちは心が けているでしょうか?私たちはミサ においてイエスによって実現された 救いに直接参加します。イエスの恵 みに触れ、イエスの功徳を自分自身 のものとします。イエスの体を食 べ、その血を飲みます。「御血一滴 だけで、世のすべての罪を償うことができる」「IIIと聖体賛歌は歌います。

シメオンは、たった一度だけ幼子を 目にしました。それはそれまでの彼 の人生における待ち時間に見合うも のでした。一方で私たちは、神が御 聖体でこれほどまでに近くに来てく れるため、救いに触れることに慣れ てしまっているかもしれません。あ まりに平凡で、毎日、変わり映えが 無いように見えます。時折、もっと 華やかな演出を望むことがありま す。そのような誘惑に直面したと き、私たちはベツレヘムの近くで目 覚めて番をしていた羊飼いたちに倣 うことができます。「羊飼いたちは 本当の意味で目を覚ましていまし た。そのために彼らは、神のこと を、また神が近くにおられることを 生き生きと感じていました。彼らは 神を待ち望んでいました。そして、 神が自分たちの日常生活から離れた

ところにおられるように思われて も、あきらめませんでした。『今生んでしたのたりのたりのたりでするにあるたがたのたきないできるでいたは、目覚めた心だけが、居小屋ではいるができるができるができるができるができる対子のうちに神をといる勇気を奮い起こす。 出からですー図。

「『ずいぶん長い間、毎日、聖体拝 領をしてきました。他の人なはないただろうに、私あもになっても同じです』と、かなです。」 「図私たちは、神的とでは、のだとのできまでたちは、のだとのの表面があることをのよるとを見じるとののようとを要しています。「私たちは旧約を喚起しています。「私たちは旧約を映起しています。」 聖書の聖人たちよりも幸福です。

(…) それは神が私たちと共にいるからです。それは主が9ヶ月間マリアの胎内にいたのと、そして十字架の上にいたのと同様です。さよりないたちは初代のキリスト教徒エスらはないませんです。彼ら宮がを得るために50または60レグアを歩かなくてはな各小教区でもより、各小教区できます」[4]。

すべてに喜びと希望の雰囲気が漂う場面と、イエスの母の心に突き刺さった剣は、悲痛な対極をなします。それは、この場面の真の姿を浮かび上がらせる影です。「マリアは、魂を貫く剣の預言に対して何も言いません。ヨセフと同様に、その

神秘的な言葉を沈黙の内に受け入れます。その言葉は非常に辛い試練を予感させ、イエスの神殿での奉献の真の意味を表わします。実に神の計画によれば、そのとき「律法に言われているとおりに」捧げられた「山鳩一つがいか、家鳩の雛二羽」(ルカ2・24)のいけにえは、イエスのいけにえの前奏曲でした」「51。

私たちの人生も、光と影、希望と落 肥、戦いと敗北によって織りなされ た絵です。神はそれをご存知で、そ の見かけ上の弱さこそ神が間近にお られる場です。神は、完璧で完成さ れた、問題のない世界という虚構を 断固として拒否し、日常の脆さ、物 足りなく見えるものの中に現れま す。神が「普通」をお選びになった ことは、多くの人の目には奇妙に映 るかもしれませんが、それは神が 「自由」をお選びになった結果で す。神は声を上げず、私たちの生活 に力づくで入り込むことはしませ

ん。クリスでは、 しるしたな、神がこのように提供を がしていまた、は、 であり、ののでは、 でもったな望、に他ないののでした。 をも、だったがは、 でのようにはからでいたがは、 でののでは、 でののでは、 でののででしたがは、 でののででしたがは、 でののででしたがは、 でののででしたがは、 でののででしたがいます。 でのででいますがは、 でのででいますがでたのします。 にもなったがは、 でのでいますがは、 でのでいますがでたのします。 にもなるできまたがは、 でのでいますができまたができまたがは、 でのでいますができまたができまたができまたができまた。 には、 でのでできまたがは、 でのでできまたがは、 でのできまたがは、 でのできまたがは、 でのできまたがは、 でのできまたがは、 でのできまたがは、 でのできまたがは、 でのできまたがは、 でいまするがは、 でいまれるの。 でいまするがは、 でいまれるの。 でいまするが、 でいまするが、 でいまするが、 でいまれるが、 でいまするが、 でいまが、 でいなが、 でいなが、 でいまが、 でいまが、 で

聖母もまた、生まれたばかりの幼子に神を見出すことを学びました。幼子の涙、飢え、眠りは神聖であり、それゆえに私たちの贖いです。「シメオンの預言以降、マリアは自身生涯を、強く神秘的な形でキリストの悲痛な使命と一致させます。そして人類の救いのために、御子の忠実な協力者となるのです」「河。

- [1] 聖体賛歌アドロ・テ・デヴォテ
- [2] 教皇ベネディクト16世、説教、 2008年12月24日。
- [3] 『道』534番。
- [4] 聖ヨハネ・マリア・ビアンネ、 キリストの聖体についての説教。
- [5] 聖ヨハネ・パウロ2世、一般謁見 演説、1996年12月18日。
- [6] 教皇フランシスコ、説教、2014 年12月24日。
- [7] 聖ヨハネ・パウロ2世、一般謁見 演説、1996年12月18日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-koutan-1229/ (2025/12/17)